

第8回 ICLS 講習会を開催いたしました

平成 29 年 1 月 22 日（日）、大原総合病院にて、第 8 回 ICLS 講習会を開催いたしました。

コースディレクターを、福島県立医科大学副理事長 心くしま国際医療科学センター長 谷川攻一先生、インストラクターを当院副院長 循環器科 石橋敏幸先生および福島県立医科大学附属病院高度救命救急センター 五十嵐佑也看護師が担当し、医師 3 名を含む 11 名が 2 ブースに分かれ、突然の心停止後 10 分間の対応と適切なチーム蘇生を習得しました。



参加者は、実践に即したシミュレーションを何度も繰り返し、蘇生に必要な技術を役割分担して行なうチーム蘇生を身に付けました。

参加者からは、BLS の質の大切さ、コミュニケーションの重要性を学んだ等の感想がありました。

新 病 院 ト ピ ッ ク ス



◀ 新病院東側



新立体駐車場 ▶

平成 29 年 1 月 25 日（水）新病院東側の足場解体により病院名サインが見えるようになりました。

2 月には南側・3 月には西側の足場が解体され、新病院外観お披露目となる予定です。

また、新病院北側に建設中の立体駐車場も、着工から約 8 ヶ月が経ち、全景が見えるようになりました。

間近で見ますと新病院同様に迫力があります。



— Information —

平成29年1月発行の地元新聞に大原総合病院 眼科を受診された患者さまの記事が掲載されましたので、一部抜粋して紹介します。

白内障の手術を受けました。市民健診の際、老眼鏡をかけても掛けても問診票が読めなくなったため、眼科医を受診したのです。

その結果、白内障と診断されました。評判の良い病院なので、ずいぶん待ちましたが、無事に済みました。男女二人の医師のうち、男性医師の手術を受け、治療は二人にしてもらいました。

手術の翌日、ガーゼを取ると、辺りの小さな文字もはっきり見えました。「先生は名人ですね。一日でこんなに良く見えるのですから」と言う私に「普通です。あなたの目がいいのですよ」と言われました。何かとても温かい言葉に聞こえ、ますます医師を尊敬してしまいました。

せっかく治してもらった目を大切にしようと思っています。しかし鏡を見てびっくりしました。老人の顔が映っていたのです。これまで「まあまあ」に見えていたので驚いて嫁を呼ぶと「いつもと変わらない」と。最近はやや現実を認めています。

2月3日に小児病棟で節分イベントがあり、栄養科も参加しました。
『鬼のホットケーキを作ろう!』と題して、ホットケーキにチョコペンで鬼のお顔、お菓子上で角と金棒をつけました。
みなさん親子で楽しんでいただけました。
夕食には、鬼を意識したおにぎりに、豆の金棒を添えて節分らしさをだし、喜んでいただけるよう工夫しました。
来年も喜んでいただけるよう頑張ります。



株式会社 SRL 様より、当財団のエンゼル保育所へ絵本 10冊をご寄贈いただきました。
「ぶんぶくちやがま」や「青い鳥」等の絵本をいただき、子どもたちは興味津々の様子で読んでいました。



2月5日に福島市のコラッセふくしまで開催されました「マイナビ看護学生就職セミナー」に参加しました。
当院ブースには、30名を超える学生の皆様にお越し頂きました。
看護師長による研修計画の説明や、若手看護師と実際の仕事内容や雰囲気等をお話し、笑顔のなかでの説明会となりました。



大原記念財団の理念 人を愛し、病を究める

私たちは、すべての患者さまとご家族のために常に一步先に行く医療を探究し、優しさを持って最善を尽くす医療を実践することにより、地域から信頼される病院を目指します。

制作 大原総合病院 地域連携相談室
発行者 一般財団法人大原記念財団
理事長 平子 健
電話 024(526)0371 ダイヤルイン
FAX 024(526)0935
代表 024(526)0300 内線(1157)
住所 福島市大町6番11号

大原記念財団職員行動規範 10カ条

私たちは、

1. 医療安全を確立し、安心と信頼を獲得します。
2. 命の尊厳を深く理解し、患者さまの権利を尊重します。
3. 優しさを持ち、気づきの医療を実践します。
4. 人間性豊かな医療人となるよう、常に自己研鑽します。
5. 新しいことへの挑戦し、質の高い医療を創造します。
6. 医療人としての誇りを持ち、如何なる時も最善を尽くします。
7. 医療情報の共有と活用を促進し、得られた情報は厳格に管理します。
8. 地域社会に支えられていることを認識し、医療連携を推進します。
9. 相互に敬意を払い、連携を密にして組織的に行動します。
10. 未来への発展のために、健全経営を目指して努力します。